

親善大使としての活動と中国生活

平成29年度親善大使
大竹 美由紀

【留学前の事前準備】

埼玉県親善大使としての私の留学期間は、1ヶ月という短い期間でした。その間どれ程有意義な時間を過ごせるかを考えました。今後、親善大使を希望される方には、是非中国に行く前に「今自分は何がしたいのか」を紙に書いておいてください。中国での留学生活は、現地での生活に早く慣れるために、食べることや身の回りのこと一つ一つに精一杯で、自分の使命を忘れがちです。県民の皆様の税金を自分たちの授業料や寮費としていただいていることを胸に留め、埼玉県のPRや県民の方への友好省の紹介、自分のやりたいことをしながら、過ごすこととなります。

私は日本で仕事をしているため、業務の繁忙期を避け、山西大学の長期休暇の時期も避けた日程で留学時期を決めました。事前に中国の国慶節などの祝日を調べ、できる限り授業に参加できる日程を考えました。もちろん、長期留学できる方であれば、祝日の中国国内の様子や祝賀行事などを体験できる方が、中国文化を理解する絶好の機会だと思います。

また、外務省の「たびレジ」に登録して、中国の情報が自分のところへメール配信されるように設定しました。お知らせには、中国にある日本大使館や領事館の祝日に伴う休館日のお知らせ、観光地でのすり等注意のお知らせ、鳥インフルエンザ流行地域のお知らせなどがあり、自分が行く土地でどのようなことに気を付けなければならないのか、情報収集をしておきました。



埼玉県PR活動の為に準備

【いざ中国へ】

愛知県にある中部国際空港から煙台空港経由で太原国際空港に行く飛行機があり、搭乗時間5時間30分で到着することができます。搭乗時間が短く、太原国際空港から山西大学到着までの時間を考えると、とても便利でした。太原国際空港に行くには、成田空港や羽田空港から出発する事もできますが、北京や成都、上海等で中国の国内線に乗り換える必要が生じます。もし、北京や成都、上海等で観光をしてから太原へ行きたいという方は、こういう方法も考えられますし、中国国内に着いてから汽車や高速鉄道（新幹線）に乗ってみるのも楽しいと思います。

太原国際空港には、山西大学の王先生が迎えに来てくださいました。空港での王先生との会話により、どのクラスにするべきか、また宿泊する寮は山西大学（上級・中級クラスがある）か山西大学商務学院（初級クラスがある）なの

かを判断されたようです。私は山西大学に案内され、中国時間の夜8時頃に到着しました。大学到着後、王先生と翌日の予定を話したり、荷物を開けたり、到着の報告を友人や家族にしたりして、買い物に出かける時間はありませんでしたが、生活に必要な荷物は全て用意していたので、特に困るようなことはありませんでした。ただ、夜に到着したことによって、シャワーを使うために必要な利用カードを買うことができなかつたため、先に留学していた本科生の日本人の方からシャワーカードを借りました。

【語学の授業】

1ヶ月の留学期間なので、11月1日から授業に出席する予定でしたが、入国した翌日の10月30日から授業を見学させていただきました。

30日に中級のクラスに出席し、授業の内容を理解できるか確認しました。授業科目によって先生は異なりますが、中級の先生は比較的ゆっくりの中国語で文法や教科書の内容説明をしてくれたので、とても分かりやすいです。クラスメイトは20名位で、10代20代の方が多く、明るく賑やかな雰囲気でした。

31日には、上級のクラスに出席しました。上級の先生も科目ごとに異なりますが、中国語の話し方がとても速く感じました。中国人同士で話すスピードだと言っていました。教室の机の並び方が、片仮名の「ロ」の字型のディスカッション形式になっていて、クラスメイトは5名程度と少なく、30代40代の方が半数以上で、皆とても流暢に話すので驚きました。最終的に、クラスの雰囲気や授業での会話するチャンスを考えて、上級のクラスに出席することを決めました。

上級のクラスメイトは、初級・中級を1年ずつ既に勉強している人や、過去に留学歴がある方など、ある程度長く中国に滞在している方々でした。そのため、会話の中では、自分が車の運転中にタイヤがパンクして困った話や、子どもの歯科治療にはどこの病院が良いのかなど、生活に密着した話題が多かったです。今思い返すと、上級クラスの授業を受けることは、正直自分にとって、背伸びをしていた部分があったと感じています。HSK5級を取得していましたが、完璧に聞き取ることができず、自分の考えが上手く言えないことも多々ありました。授業テキストの予習は毎日欠かさず、作文の宿題があった時は、深夜までかかることもありました。それでも、毎日中国語の勉強ができる喜びと、友人たちとの楽しく刺激のある日々で、とても充実していました。



上級クラスの授業の様子

【埼玉県のPR活動】

埼玉県の親善大使として留学するからには、「奨学金」という単語は必須です。私のように短期間の留学ですと、先生や友人、銀行の職員にまで、なぜ前期や後期の授業が始まる時期ではなく、中途半端な時期に来たのか、どうして短い期間なのか、短期間だと授業料はいくらなのか、と聞かれました。その場合は、必ず埼玉県と山西省が友好都市であること、そして奨学金で留学していることを伝えなくてはなりません。



山西大学商務学院で中国人学生に紹介

山西省に留学する前は、埼玉県のたくさんの魅力を伝えなかったのですが、日本にある埼玉県のことを知っている人は、残念ながらあまりいませんでした。山西大学では埼玉県の親善大使を毎年受け入れていることから、何人かの先生が知っている程度です。やはり、外国人の多くの方が知っているのは、東京と京都でした。ですから、どのように話をしたら相手の印象に残るか考えた上で、アニメの話題から始めました。アニメの「クレヨンしんちゃん」は、ほとんどの方が知っていました。また、私の友人の中国人の女の子は「神様はじめました」のアニメが好きだったことから、私が住んでいる埼玉県には、アニメの舞台となった町「川越市」があることを伝えました。川越氷川神社の大きな鳥居の写真が写ったパンフレットを見て、「アニメで見たことがあるよ、日本らしい物だね」と、とても興味を示してくれました。そこから、川越の蔵造りの町並みや川越まつりを紹介すると「川越まつりはどんな時に行うのか」「山車の上にいる人は、誰なのか」など、多くの質問が出て、手応えを感じました。



親善大使の湯浅さんと埼玉県のPR

日本語学科の中国人学生との交流は、時には中国語で、時には日本語で会話するので、会話を通じて楽しい勉強になります。中国では、旧正月だけでなく、冬至にも水餃子を食べることなど、中国の文化を教えてくださいました。日本では、冬至に南瓜を食べたり、柚子の入ったお風呂に入る習慣がありますから、文化の違いを知ることで、お互いにとても面白く感じ、また習慣に込められた意味も知ることができました。

また、現地では、平成27年度埼玉県親善大使の大久保豪さんにお会いする

事ができました。大久保さんは、山西大学の大学院に在籍しているそうです。その一方で、山西財經大学の日本語教員もされています。その大久保さんから、山西財經大学の「日本社会文学」の授業に来てくださいとお誘いがありました。中国での日本文化の授業を見学することができ、また、中国人学生との交流ができる良い機会だと思い、出席しました。

自己紹介で、アニメの「クレヨンしんちゃん」や「神様はじめました」の舞台となった埼玉県から来たことを話し、私の住む川越市には「川越まつり」というユネスコの無形文化遺産に登録された伝統的な行事があることを「川越まつり」のポスターを見せながら、興味を持ってもらえるように日本語で話しました。学生たちからも、日本語で「どんな日本食が好きですか」等の質問がありました。



山西財經大学の授業に参加

【中国での生活】

中国でも日本と同じように、携帯電話はかなり普及しています。留学生は、中国で携帯電話を購入する方がほとんどです。私は滞在期間が短いため、現地で携帯電話を購入するのではなく、日本でも使用していた SIM フリーの Android スマートフォンを持って行き、現地で SIM カードのみ購入して使用することにしました。

中国ではインターネットの規制があり、日本で使用していたアプリが使えないことも多くあります。中国では Google 関係のアプリやサイトが規制されているため、Android のアプリをダウンロードする「Play ストア」を使ってアプリをダウンロードすることも、Google で検索することも Chrome でインターネットを使うこともできません。中国でスマートフォンを購入した場合は、あらかじめ中国で使える検索アプリや地図アプリなどがインストールされています。私のように日本で使っていたスマートフォンをそのまま持って行ったとしても、中国で使えるアプリを別途インストールしないと、インターネットもできないため大変です。しかし前述のとおりアプリをダウンロードすること事体が非常に難しく、苦労しました。もし、日本の SIM フリースマートフォンを持って行く場合は、あらかじめ日本で「百度アプリ」や「百度マップ」などをダウンロードしていくことをお勧めします。

また、日本でよく使われている LINE も一切使えません。そのかわり、中国では「微信」(WeChat) というメッセージアプリが使われています。学校からの連絡事項や留学生同士の会話、中国人の友人との連絡もこの WeChat を使っていました。日本でも WeChat はインストールできるので、日本の家族や友人等にも

あらかじめインストールをお願いしておく、普段どおり連絡が取りあえます。

なお、埼玉県国際課の担当者の方との連絡はE-mailになりますが、上記のとおり Google 関係のネットは繋がらず、また Yahoo も使用できないという情報もあるため、Gmail や Yahoo メール以外のメールアドレスが必要になります。

中国では電子決済が進んでおり、私は1か月ほどの滞在において、あまり現金を使用しませんでした。コミュニケーションアプリである WeChat には決済機能もあり、あらかじめお金をチャージしておく、コンビニやタクシーなど、多くの場所でキャッシュレスの支払いができます。同様に「ALIPAY」（支付宝）というシステムもあるようですが、私は使わなかったのではありません。



大学食堂と提携している銀行カード

中国の銀行の支店が日本にもあり、私は先に日本で中国工商銀行の口座を作り、いくらか中国元で外貨預金をしてから渡航しました。このキャッシュカードには銀聯カードのデビット機能があり、中国でデビットカードとして使用することができます。私はこの銀聯カードと WeChat の決済でほとんどの支払いをしていたため、現金はあまり使いませんでした。ただ、お店側のカード読み取り機械が、中国国内で作成されたカード専用の場合もあり、私が持っていた海外作成の銀聯カードだと、使えない場合もありました。



食堂の様子（上にメニュー表示）

なお、山西大学内の食堂では現金が使用できず、提携している中国建設銀行のキャッシュカードが必要になります。このキャッシュカードにも銀聯カードがついているため、結果的に日本で口座を開設する必要はありませんでした。余談ですが、食堂は1食140円ほどで非常に安価で、満足できるほどの量があり、食費は抑えられます。

中国での生活で意外と大変なのは交通手段です。歩いて行動するのは、どんなに体力があっても一苦労です。中国の道幅はとても広く、駅前的大通りでは、右左折レーンも含めると片側9車線ぐらいあります。

太原市ではタクシーや市内外を循環するバスが



レンタル自転車のQRコード

たくさんあります。タクシー料金は行き先によって異なるので一概に言えませんが、バスはどこから乗っても約50円で、終点まで同一料金です。稀に無料の日があります。先生に聞いてみたところ、大気汚染の関係や受験生の一斉受験日などの理由で、市ごとに無料になる日があるとのことでした。

私は、レンタル自転車が使用できるように携帯電話のアプリに登録しました。やはり、携帯電話からレンタル自転車会社のアプリへお金をチャージして使用します。自転車個々に付いているQRコードに携帯電話をかざすと、自転車のロックが外れ、乗れるようになります。

【中国文化の体験】

短期間に効率的に観光地に行ける方法を考えたら、バスツアーでした。大学の敷地内に旅行会社があるので、自分の行きたい場所を伝えて、ツアーを探してもらいました。1泊2日のバスツアーの行程は、世界遺産の平遥古城や王家大院、喬家大院、壺口瀑布などを巡り、世界遺産の平遥古城の中にある「客棧」という伝統的な民宿に宿泊するという内容です。中国人が利用する一般的なバスツアーですから、ツアー客もツアーガイドさんも全て中国人でした。集合時間や見学地の案内は全て中国語ですから、聞き取りにとっても苦労しました。その度に、周りのツアー客の方々に聞いたりして、交流を図りました。

ツアーで訪れた場所は、どこも素晴らしいところでした。特に、印象深いのは、世界遺産の平遥古城です。中国の明の時代の城壁が、ほぼ完全な形で保存されており、城壁の中が町のようになっていて、今でも人々が暮らしています。城内はとても広いのですが自動車が通れず、電気カートのような乗り物で奥へと入って行きます。しかし、中心部まで来ると乗り物禁止になるようです。中心



部には「市楼（塔のようなもの）」

壺口瀑布（黄河の濁流が流れ込んでいる）

「古衙署（昔の県知事の仕事場）」

「日昇昌（銀行の前身的な私的金融機関。中国票号博物館とも呼ばれている）」などの歴史的な建造物があり、町の中を歩いて巡るだけでも、とても楽しいです。そんな城壁の中で暮らし、食堂を営んでいる方とお話をしました。昔はお年寄りが多か



平遥古城の町並み

った町に若い人が住むようになったこと、観光地化するにつれて上下水道が整備されてきたこと、建物の保存や修理のための費用は自己負担であり中国政府等からの補助金もないことなど、色々なお話を伺いました。私の留学の目的の一つに、中国の文化財に対する保存方法や助成制度の研究があったのですが、研究するまでに至らなかったことが悔やまれます。きちんと研究したわけではないので、これだけでは話の真偽はわかりませんが、ただ、歴史的な建物を保存しながら暮らすという事の難しさを知ることができました。

宿泊した客棧は、私が子供の頃にテレビで見たことがある独特の造りで、感動しました。中国の歴史文化に興味のある方は、是非訪れてみてはいかがでしょうか。埼玉県と友好都市である山西省には、まるで映画のような、中国らしい歴史ある町並みが残されています。

【最後に】

貴重な体験をさせていただいたことに感謝申し上げます。この事業にご尽力いただいた埼玉県国際課の皆さま、長期休暇を了承していただいた職場の皆さま、中国語の指導をしてくださった方々に御礼申し上げます。さらに、中国留学を理解してくれた家族や友人たちに感謝します。埼玉県の皆さまに、友好省である山西省の魅力が伝わり、また、埼玉県の魅力が世界の人々に少しでも伝わった事と思います。



客棧

たった1ヶ月、されど1ヶ月、成果は自分次第です。この1ヶ月は、伸び悩んでいた私の中国語能力を引き伸ばし、人生をととても豊かにしてくれました。この経験を生かし、2020年のオリンピック・パラリンピック競技大会におけるボランティア活動や、中国語圏の方の日常の手助けなど、社会貢献をしていきたいと考えています。